

(一面の続き)

「コテ、メン、ドウ」。
平日夜、北京中心部の体育館に気合の入った日本語のかけ声がこだまする。剣道の練習に打ち込んでいるのは中国人の若者約30人だ。「『銀魂』など日本の剣術アニメが好きで、格好良さにひかれたの」。女性公務員の張旖旎さん(24)が汗



北京第4中学で披露された京劇と日舞のコラボ劇「西遊記」。日中両国のプロの役者が演じた創作劇を、同校生徒や地元住民らが鑑賞した(3月10日)

アニメが生んだ剣道熱

をぬぐいながら、屈託のない笑顔を見せた。

道場には日本人コーチの姿も。図書館職員の高橋さん(25)は「日本人はまじめで親切。歴史や政治の問題を抱えてきた悪印象は消えました」と話す。

中国には「剣道は日本軍国主義を連想させる」との見方もある。中国剣道団体連盟の于江会長(33)は「友人から『そんなものはやめろ』と言われた」という。

「体験交流、活発に

ところが、近年、日本アニメ人気を追い風に剣道団体が続々誕生。愛好者は5年で倍増し、約4000人に。所得が伸び、高価な剣道具を買いやすくなったこともブームをおおる。

今、実体験を伴った新たな対日交流が、中国人の画一的な対日観に小さな風穴を開けつつある。中国の小中高校では日本への修学旅行が一つのトレンドだ。

進学校の北京第4中学(中学・高校に相当)は2年前から高2生徒全員の日本修学旅行を始めた。楊凌波副校長(37)は「日本の行き届いた社会運営や人々の向上心、職業人のプロ意識など学ぶ点は多々ある」と現地研修の意義を説く。今年6月に約5000人を訪日させる。

日本は2004年から中国人修学旅行生のビザを免除。08年には392校、1万1436人(教師を含む)

が来日した。生活が豊かになり、「1人約1万元(1元約14円)の旅費を自己負担できる」(楊副校長)環境が研修に弾みをつける。同校は慶応高校と協力し、京劇と日舞のコラボ劇

「西遊記」を今春校内で上演するなど対日交流に意欲的に取り組んでいる。さる2月、文化交流で訪日した北京・清華大学付属中の高2生、范宣子さん(17)は「日本人には歴史問題で偏見を抱きがち。でも、実際に会ったら大違いでした。礼儀正しく温かいので驚いた」と語る。前向きな認識変化は日本理解の促進に希望の灯をともしす。

ただ、「庶民は日本人と接する機会が少なく、誤解も多い」(元日本留学生)のが実態。大多数は反日色の強い歴史教育やメディアを通じて対日観を形成している。愛国教育の影響で「反日は愛国」との認識も根強

い。国民の対日観は日中関係のよしあしに流されやすく、なお不安定だ。「日本人は不誠実で、歴史を歪曲する。南京大屠殺も認めない」。トヨタ車のリコール問題では、中国のウェブサイトにそんな批判まで飛び交った。

「今は日中間に目立った外交摩擦がなく、中国の大国化で人々も自信をつけたところ。その分、反日機運は静まっている」。北京のある反日活動家は日中関係はしばし小康状態と見る。それだけに反日再燃への懸念はぬぐえない。対日観変化の兆しが潮流となつて定着するかどうかは予断を許さない。

この連載は、以下の記者が担当しました。編集委員・藤野彰、大塚隆一、勝股秀通、安部順一、科学部・中島達雄、経済部・寺村暁人、山本貴徳、社会部・新庄秀規、国際部・末統哲也、関泰晴、青山謙太郎、若山樹一郎、新居益、政治部・宮井寿光、写真部・田村充、上甲鉄、富田大介。

(おわり)

Yomiuri Information

オリジナルプログラムが人気

「クラブ・ウィルビー」会員募集中

club willb

2009年1月、「新しい大人文化の創造」を目指してスタートした「クラブ・ウィルビー」(代表・残間里江子、読売新聞など協賛)。発足以

クラブ・ウィルビーの特色は、クラブ主催のオリジナルプログラムとウェブコンテンツ。特にオリジナルプログラムは、いずれも大人の好奇

グ大会、交流会など、各界著名人らなるサポーターメンバーをめぐり多彩なゲストを迎え、様々な催しが開催されている。また、プロク